



第46期 中間報告書

2013年1月1日 ▶ 2013年6月30日

Contents

株主のみなさまへ	1
SPECIAL FEATURE	3
TOPICS	5
連結業績の概況	6
セグメント別事業概況	7
連結財務諸表	12
キャノンマーケティングジャパン グループ会社一覧	13
会社の概要/株式の状況/役員	14

キャノンマーケティングジャパン株式会社

株主のみなさまへ

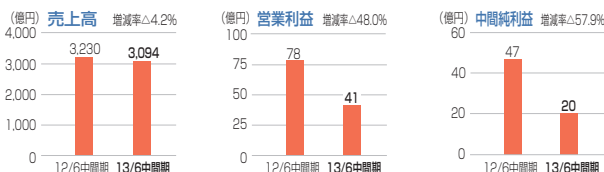
株主のみなさまには、日頃より温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。
当社第46期の中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

* 本報告書では、第2四半期累計期間を「中間」と記述しております。

連結決算ハイライト

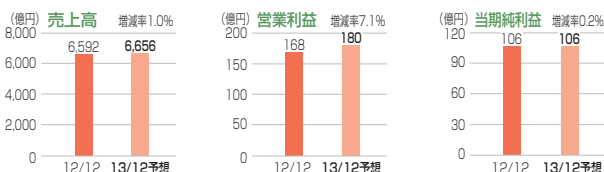
中間業績

● 企業の設備投資と経費の抑制等により減収減益



通期業績予想

● 景気回復と積極的な拡販により増収増益へ



従来、販売費及び一般管理費に計上していた販売促進費の一部について、2013年より売上高から控除する方法（純額表示）に会計方針を変更しております。この変更に伴い、2012年の売上高についても控除後の数値に組み替えを行っております。なお、この変更による営業利益、中間（当期）純利益への影響はありません。

表紙写真：

古市 智之（ふるいち・ともゆき）
キヤノンカレンダー2013
「Breath of Genesis ～原始小笠原～」より

■ 設備投資回復の遅れ等により減収減益

当中間期を振り返りますと、安倍政権の経済政策「アベノミクス」への期待を背景に、景気は回復基調で推移したものの、企業の設備投資については慎重な姿勢も見られ、経費の抑制も続きました。

このような経済環境のもと、当社グループは、2015年を最終年度とする「長期経営構想フェーズII」の重点戦略の実施に意欲的に取り組みました。「キヤノン製品のシェア拡大」においては、レンズ交換式デジタルカメラやコンパクトデジタルカメラ、レーザープリンター、大判インクジェットプリンター等でシェアNo.1を継続し、「事業の多角化」では、商業印刷事業を担う昭和情報機器(株)の増収増益の達成、医療関連の有力新製品の投入、業務用映像機器の順調な推移等の成果がありました。また、「サービス事業会社化」では、西東京データセンターのサービス売上計上や中小オフィス向けITソリューション事業の拡大をはかり、「グループ経営革新」では、スマートデバイスの大量導入等によるワークスタイルの変革等を推進しました。

部門ごとに状況を見ますと、ビジネスソリューション部門は、MFP（複合機）が出荷台数を伸ばすとともに、グループ会社のキヤノンシステムアンドサポート(株)や昭和情報機器(株)が好調に推移しましたが、レーザー



村瀬治男

川崎正己

プリンターやMFPの保守サービスの苦戦により、減収減益となりました。ITソリューション部門は、市場の回復を背景にSIサービスおよびプロダクト事業が順調に推移し増収となりましたが、経費の増加等により減益となりました。イメージングシステム部門は、レンズ交換式デジタルカメラが好調に推移したものの、コンパクトデジタルカメラ、インクジェットプリンターが苦戦し、減収減益となりました。産業機器部門は、半導体関連の投資低迷や医療機器における消耗品の販売減等により、減収減益となりました。

これらの結果、当中間期の業績は、後半には改善へと向かったものの、前半の進捗の遅れが響き、**左図**のとおり減収減益となりました。

中間配当金につきましては1株につき12円（前中間期は10円）といたしました。年間では1株につき24円（前期と同額）を予定しております。

■ 景気回復を背景に通期では増収増益へ

今期の後半を展望しますと、わが国の経済は個人消費に加え企業の設備投資の改善も期待され、景気は引き続き回復基調で推移していくものと思われます。当社グループは、「成長と変革の両輪で加速しよう」のテーマのもと、業績向上に向け勢いを加速させて

まいります。

部門ごとに状況を展望しますと、ビジネスソリューション部門では、MFPやレーザープリンターの拡販、イメージングシステム部門では、レンズ交換式デジタルカメラの拡販とインクジェットプリンターの反転攻勢に注力し、両部門とも今期の後半は増収増益をはかります。しかしながら、前半の進捗の遅れが影響し、通期では売上は若干の減少、営業利益は減少を見込んでおります。一方、ITソリューション部門は、SIサービス、ITインフラ・サービス、プロダクトの各事業の順調な推移により増収増益、また、産業機器部門は、半導体製造関連機器等の回復により収益改善を見込んでおります。

これらの見通しを踏まえ、**左図**のとおり、当社グループは、通期で増収増益を目指してまいります。

株主のみならず皆様におかれましては、一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2013年8月

代表取締役会長 村瀬 治男

代表取締役社長 川崎 正己

「長期経営構想フェーズⅡ」の進捗のご紹介

「長期経営構想フェーズⅡ」（2011年～2015年）が3年目に入りました。当中間期における主な動きをご紹介します。

1 キヤノン製品のシェア拡大

顧客満足度向上のために注力しているのが、VOC (Voice Of Customer=お客様の声) の活用。お客様相談センター等に寄せられる膨大な問い合わせデータに対し、近年ではITシステムの活用を通じ、より体系的で効率的な分析ができるようになりました。これにより、有用な情報をスピーディーに抽出できるようになり、よりニーズに適った製品やサービスの創造につながっています。

各種拡販戦略に加え、こうした顧客満足度向上への取り組みが効を奏し、レンズ交換式デジタルカメラやコンパクトデジタルカメラ、レーザープリンター、大判インクジェットプリンター等がシェアNo.1を継続したほか、インクジェットプリンターでは首位との差を縮める等の成果に結びつきました。

2 事業の多角化

〈商業印刷〉

2011年にグループ入りした昭和情報機器(株)。プロダクションプリンターの好調な推移により増収増益を達成する等、商業印刷事業の拡大を牽引しています。また、請求書やダイレクトメール等のデータプリントサービス市場向けの業務用高速連帳プリンター「Océ ColorStream 3000 Twin」シリーズを2月に、企業内印刷市場や商業印刷市場に対応する「imagePRESS 1135 II」等のモノクロ専用機3機種を6月にそれぞれ発売する等、今後の事業拡充に向けラインアップの強化をはかりました。



「Océ ColorStream 3000 Twin」シリーズ



imagePRESS 1135 II

〈イメージングシステム〉

映像制作用の「CINEMA EOS SYSTEM」や監視用の情報カメラ等の業務用映像機器が順調に推移したほか、コンピューターとの親和性をもつネットワークカメラの拡販にも注力しました。また、新規事業として、企業向けの額装写真のレンタルサービス「Shuttle Photo (シャトルフォト)」を発表しました(サービス開始は8月下旬)。



デジタルシネマカメラEOS C50
(CINEMA EOS SYSTEM)

〈医療〉

より快適・自由な操作を実現し、既存X線システムとの容易な組み合わせを実現した「CXDI-701C Wireless」等X線デジタル撮影装置4機種に加え、従来機種に比べ、より効率的な処理を可能とする大容量タイプのスピード低温滅菌システム「ES-1400」を5月に発売し、医療機器の競争力強化をはかりました。また、自社開発の新製品である、画像診断装置のデータを統合管理するPACS*「PRIMITUS（プリミタス）」シリーズを1月に発売し、医用画像ソリューション事業に参入しました。

* Picture Archiving and Communication Systemの略で、医用画像システムの意味です。



CXDI-701C Wireless使用イメージ

3 サービス事業会社化

昨年10月に稼働を開始した西東京データセンター。高度なセキュリティや耐震性能等の高品質な仕様が評価されて受注が順調に進み、売上が計上され始めました。今後も活発に受注活動を展開し、売上拡大をはかってまいります。また、共通基盤の「SOLTAGE（ソルテージ）」をベースに展開中のクラウドサービスの新製品として、情報セキュリティ分野で「Guardianwall Cloud Edition」を発売したほか、需要予測分野で「iForemast」を発表する（発売は7月）等、ラインアップを強化しました。

また、中小オフィス向けITソリューション事業では、IT支援サービス「HOME」の契約件数が着実に拡大したほか、主にキヤノンシステムアンドサポート(株)によるセキュリティソリューション分野の商品の販売が好調に推移しました。



西東京データセンター

4 グループ経営革新

ワークスタイルの変革に向け、昨年10月以降、グループ社員を対象に薄型軽量のPC「ウルトラブック」を約12,000台、加えて営業職を対象にスマートフォンを約5,000台導入。これにより、顧客対応力強化と業務の効率化を推進しました。

また、「CSR活動はマーケティングそのもの」という視点での本業を通じた社会貢献活動に加え、ボランティアによる自然再生活動として、棚田や森林の保全、環境学習等で構成される「未来につなぐふるさとプロジェクト」を国内のさまざまな地域で展開しました。



未来につなぐふるさとプロジェクト
(5月、山梨県内)

トピックス



1月 ▶▶▶



キヤノンギャラリー S(品川)
今後の予定*

- 8/5~9/10
野町 和嘉 写真展
- 9/12~10/12
水谷 章人 写真展
- 10/17~11/18
竹内 敏信 写真展
- 11/21~12/24
齋藤 康一 写真展

*展示内容は予告なく変更する
場合がございます。

キヤノンギャラリー Sは、日本の代表的な写真家や話題の写真家の作品を多くの人々にご覧いただくことを目的として、2003年5月、品川本社ビル内にオープンし、このほど開設10周年を迎えました。この節目を記念し、2013年の年間を通じて「キヤノンギャラリー S 10周年記念展」を、キヤノンギャラリー S とキヤノンギャラリー銀座の両会場で順次開催しています。

3月 ▶▶▶



2005年4月から始めた、使用済みインクカートリッジの回収を通じたベルマーク運動への協賛。開始から8年で早くも協賛総額1億円を突破し、ベルマーク教育助成財団より感謝状と記念品をいただきました。

4月 ▶▶▶



「ウィーン少年合唱団 2013年日本公演」に特別協賛。今年は4つのグループのうち、モーツァルト組が来日し、全国で33,000人以上のお客様が来場しました。

4月 ▶▶▶



キヤノングループの社章を一新。設立当時と同じ「鷲」をあしらったデザインには、世界への雄飛や技術と品質の追求など、キヤノンの原点である「進取の気性」という思いが強く込められています。

5月 ▶▶▶



オフィス用額装写真のレンタルサービス「Shuttle Photo」を8月下旬より開始することを発表。イメージングシステム部門における新規事業を拡大します。

連結業績の概況

■ 当中間期の概況

当中間期におけるわが国の経済を振り返りますと、不安定な海外景気等一部に懸念があったものの、安倍政権の経済政策「アベノミクス」への期待を背景にした円安・株高の進行、個人消費の着実な持ち直し等により、景気は回復基調で推移しました。一方、企業の設備投資については、徐々に改善の兆しが現れているものの、依然として慎重な姿勢も見られました。このような経済環境のもと、当社グループは、新製品の拡販やさまざまなソリューション提案等に積極的に努め、売上拡大に取り組みました。しかしながら、主に前半においてビジネスソリューション部門や産業機器部門で販売の進捗に遅れがあり、売上は厳しい状況で推移しました。後半に入って売上はほぼ前年同期並みを確保する等回復へと向かったものの、売上高は3,094億32百万円（前年同期比4.2%減）と、前年同期に比べ減収となりました。

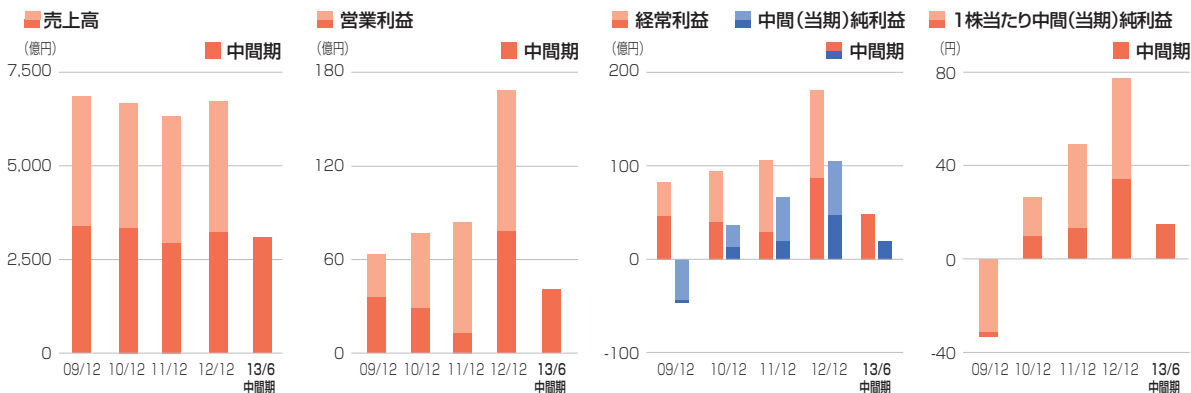
利益面につきましても、売上の減少に伴い売上総利益が減少したこと等により、営業利益は40億66百万円（前年同期比48.0%減）、経常利益は48億67百万円（前年同期比44.0%減）、中間純利益は19億73百万円（前年同期比57.9%減）と、前年同期に比べ減益となりました。

■ 通期の業績予想

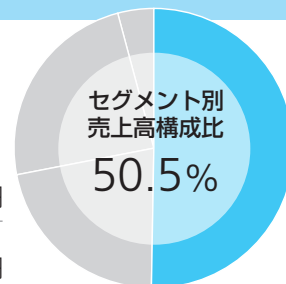
通期の連結業績予想につきましては次のとおりです。

売上高	6,656億円	（前期比1.0%増）
営業利益	180億円	（前期比7.1%増）
経常利益	190億円	（前期比4.9%増）
当期純利益	106億円	（前期比0.2%増）

業績等の推移



ビジネスソリューション



売上高 1,636億69百万円

営業利益 33億97百万円

ビジネスソリューション

imageRUNNER
ADVANCE C2230FimageRUNNER
ADVANCE C2218F-V

MFPの国内市場は、出荷台数は前年同期に比べ増加しました。当社グループは、オフィスMFPの「imageRUNNER ADVANCE」シリーズにおいて、カラー機で普及モデルの「C5200」シリーズやコンパクトモデルの「C2200」シリーズを中心に新規顧客の開拓等、積極的な拡販に努めました。また、KG（キット・ギャランティー）方式という、中小規模事業所やSOHOのニーズに対応した新しい保守サービスを提供する「imageRUNNER ADVANCE C2218F-V」を1月に投入しました。商業印刷市場向けのプロダクションMFPにおいても、「imagePRESS」シリーズやオセ社（オランダ）の業務用プリンターの受注促進に注力しました。これらの結果、MFP全体の出荷台数は前年同期を上回りましたが、前半における製品構成の変化に伴う単価下落等の影響を受け、売上は前年同期を下回りました。

レーザープリンターの国内市場は、一般オフィスでの需要低迷等により出荷台数は前年同期を下回りました。当社グループも、A3モノクロ機の「Satera LBP8630/8610」等を中心に拡販に取り組みましたが、前年同期には大型商談があったこともあり、売上は前年同期を下回りました。また、トナーカートリッジの売上も、オフィスの経費削減の影響によるプリント需要の減少により、前年同期を下回りました。大判インクジェットプリンターは、A1ノビ対応の「imagePROGRAF iPF650」等を牽引役として、CAD（コンピューター支援設計）やポスター作成市場等を中心に拡販に努めました。売上は前年同期比で微減となりました。オフィスMFPの保守サービスは、プリント需要は堅調に推移したものの、保守料金の単価下落の影響を受け、売上は前年同期を下回りました。なお、当分野では引き続き、オフィスMFPの遠隔監視システム「ネットアイ」の登録拡充等、さまざまなコストダウンに取り組みました。また、ドキュメントソリューションでは、中小オフィス向けIT支援サービス「HOME」の導入促進に努め、契約件数を着実に伸ばしました。



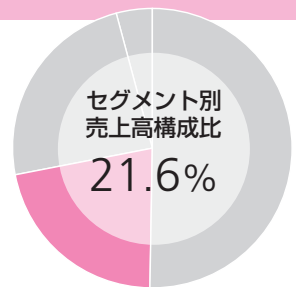
Satera LBP8630



imagePROGRAF iPF650

売上高 699億71百万円

営業利益 16百万円



※ITソリューションの売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高144億43百万円が含まれております。

ITソリューション

ITソリューションの国内市場は、幅広い業種で設備投資やソフトウェア投資が増加傾向となり、回復基調で推移しました。当社グループは、市場の回復に合わせ積極的な受注活動を展開した結果、特に金融機関向けのSIサービス事業やプロダクト事業が順調に推移し、売上は前年同期を上回りました。

● SIサービス事業

SIサービス事業は、お客さまの要望に合わせた個別システムの開発と、プロダクトをベースとするシステム開発を行っております。当中間期は、金融機関向けを中心に個別システム開発案件が増加し、売上は前年同期を上回りました。

● ITインフラ・サービス事業

ITインフラ・サービス事業は、基盤系商品や構築サービス等の基盤ソリューションならびにクラウドサービス、システム運用サービス、データセンターサービス、BPO（業務の外部委託）サービスと

いったアウトソーシングサービスを提供しております。当中間期は、データセンターサービスやBPOサービス等が順調に推移したものの、基盤ソリューションが低調に推移したため、売上は前年同期比で微減となりました。

● エンベデッド事業

エンベデッド事業は、製品組み込みソフトウェアの開発を行っております。当中間期は、製造業の主要顧客向け案件が減少し、売上は前年同期を下回りました。

● プロダクト事業

プロダクト事業は、IT関連のハードウェア、ソフトウェアおよびライセンスの販売を行っております。当中間期は、Windows XPのサポート終了に伴う入れ替え需要の発生等により、ビジネスPCが好調に推移しました。また、メモリー関連製品の販売が堅調に推移し、売上は前年同期を上回りました。

事例紹介 ● 明治大学

教育支援情報システムを刷新 キヤノンITソリューションズ(株)がパートナーに

「おお明治 その名ぞ…」の校歌で有名な明治大学。その名も「Oh-o! Meijiシステム」と称する教育支援情報システムを4月より刷新しました。開発パートナーに選ばれたのがキヤノンITソリューションズ(株)。最良の解決策としてオープンソースでのシステム構築を提案したことが評価されました。同システムは、お知らせやカレンダー等の大学生活に関する情報と、授業資料やレポート等のオンラインによる学習支援で構成。3万人規模に及びユーザーからは「使いやすいシステムになった」との声が寄せられているとのこと。

スマートフォン画面▶



イメージングシステム

セグメント別
売上高構成比

24.0%

売上高 777億64百万円

営業利益 14億84百万円

デジタルカメラ

レンズ交換式デジタルカメラの国内市場は、新規ユーザー層の拡大や買い替えの促進等により需要が拡大し、出荷台数は前年同期を上回りました。当社は、2月末から5月初旬まで実施した「ザ・ゴールドラッシュキャンペーン」等により積極的な拡販を行った「EOS Kiss X6i」、EOS M」や、4月に発売した世界最小・最軽量*の一眼レフカメラ「EOS Kiss X7」等のエントリーモデルに加え、フルサイズセンサーを搭載した「EOS 5D Mark III」や「EOS 6D」等の高単価のミドルクラスが大幅な伸びを示しました。

また、交換レンズも好調に推移し

*2013年3月1日現在

たことから、3月、4月とレンズ交換式デジタルカメラ、交換レンズでそれぞれ過去最高の月間出荷台数を更新しました。これらの結果、本体および交換レンズともに、売上は前年同期を大幅に上回りました。

コンパクトデジタルカメラの国内市場は、スマートフォンの普及の影響等により、出荷台数は前年同期を下回りました。



EOS M



EOS Kiss X7



EOS 6D

Column

新しい写真に出会えるコンパクトデジタルカメラを発売

4月よりキヤノンオンラインショップ限定で発売している“PowerShot N”は、スマートフォンやタブレットを利用してSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）で写真を共有する等、撮った写真をさまざまなかたちで楽しみたいユーザーに向けて開発した、新しいコンセプトのコンパクトデジタルカメラです。

1回の撮影で、1枚のオリジナル写真に加えて、構図や色調・露出を自動で調整した5種類の写真が撮れる「クリエイティブショット」を搭載。これにより、日常の撮影から思いがけないアートのような写真を楽しむことができます。



た。当社は、「PowerShot G15」、「PowerShot S110」等のプレミアムモデルや、光学20倍ズームレンズ搭載の動画性能を強化した新製品「PowerShot SX280 HS」に加え、Wi-Fi搭載モデルの「IXY 610F」を中心としたエントリーモデルの拡販に努め、プレミアムからエントリーまでの各カテゴリでバランスよく製品ラインアップを構築しました。これらの結果、シェアNo.1を維持しましたが、市場が低調に推移したため、売上は前年同期を下回りました。



PowerShot SX280 HS

インクジェットプリンター



PIXUS MG6330

インクジェットプリンターの国内市場は、個人需要が低調に推移したこと等により、出荷台数は前年同期を下回りました。

た。当社は、市場の低迷に加え、昨年末から店頭流通在庫が例年より増加したこと等により、売上は前年同期を下回りました。また、インクカートリッジも、本体出荷台数の減少により、売上は前年同期を下回りました。

業務用映像機器

監視用の情報カメラが堅調に推移したことに加え、映像制作用のカメラやレンズで構成される「CINEMA EOS SYSTEM」や、業務用ビデオカメラの新製品も好調に推移

し、業務用映像機器の売上は前年同期を上回りました。



EOS C500
(CINEMA EOS SYSTEM)

セグメント別
売上高構成比

3.9%

売上高 124億37百万円

営業損失 10億00百万円

産業機器



Zygo社製光学計測機器

産業機器は、半導体製造関連機器や光学計測機器の拡販に取り組み、後半に入って売上の減少幅は大きく改善する等、徐々に回復の兆しが現れました。しかしながら、国

内半導体関連の投資低迷の影響により受注活動が低調に推移したため、売上は前年同期を下回りました。

医療機器は、調剤・感染管理等のヘルスケア分野で眼科機器や全自動分包機が好調に推移し、増収となりました。医療イメージング分野では、デジタルラジオグラフィー（X線デジタル撮影装置）の拡販に取り組んだ一方で、市場のデジタル化進展によりフィルム等の消耗品が販売減となり、また、前年同期には大型案件があったこともあり、減収となりました。このため、医療機器全体の売上は前年同期を下回りました。

デジタルラジオグラフィー
CXDI-701C Wireless

● Column ●

調剤薬局で活躍！ 薬剤の一包化作業を自動化・省力化

当社グループのキヤノンライフケアソリューションズ(株)では、調剤薬局向けに、全自動の薬剤分包機「E-FAS」や、“次世代”錠剤供給ユニットである「E-Drop」を販売しています。

高齢者の増加に伴い、薬の飲み忘れや誤飲防止を目的に、1回に飲む薬をまとめて分包する一包化作業の必要性が高まっています。「E-Drop」を「E-FAS」に接続して使用することにより、調剤薬局で行っている一包化作業の負担を大幅に軽減することができます。



E-Dropを接続したE-FAS

連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円
百万円未満切捨)

	当中間期 (2013年6月30日現在)	前 期 (2012年12月31日現在)
■ 資産の部		
流動資産	292,733	316,608
固定資産	144,145	145,965
有形固定資産	100,012	99,564
無形固定資産	13,827	15,986
投資その他の資産	30,304	30,415
資産合計	436,878	462,574
■ 負債の部		
流動負債	137,257	163,397
固定負債	44,547	45,088
負債合計	181,804	208,486
■ 純資産の部		
株主資本	253,964	253,855
資本金	73,303	73,303
資本剰余金	82,819	82,819
利益剰余金	124,734	124,624
自己株式	△ 26,892	△ 26,891
その他の包括利益累計額	869	6
その他有価証券評価差額金	827	61
為替換算調整勘定	42	△ 54
少数株主持分	240	225
純資産合計	255,073	254,088
負債純資産合計	436,878	462,574

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円
百万円未満切捨)

	当中間期 (自 2013年 1月 1日 至 2013年 6月 30日)	前中間期 (自 2012年 1月 1日 至 2012年 6月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,845	19,589
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,638	△ 8,596
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,232	△ 2,598
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,024	8,395
現金及び現金同等物の期首残高	108,259	102,372
現金及び現金同等物の中間期末残高	107,235	110,767

中間連結損益計算書

(単位：百万円
百万円未満切捨)

	当中間期 (自 2013年 1月 1日 至 2013年 6月 30日)	前中間期 (自 2012年 1月 1日 至 2012年 6月 30日)
売上高	309,432	323,044
売上原価	206,229	214,378
売上総利益	103,203	108,666
販売費及び一般管理費	99,136	100,850
営業利益	4,066	7,815
営業外収益	1,097	1,132
営業外費用	296	252
経常利益	4,867	8,695
特別利益	120	242
特別損失	1,084	379
税金等調整前中間純利益	3,903	8,558
法人税等	1,914	3,860
少数株主損益調整前中間純利益	1,988	4,698
少数株主利益	15	9
中間純利益	1,973	4,688

※ 従来、販売費及び一般管理費に計上していた販売促進費の一部について、当中間期より、売上高から控除する方法（純額表示）に変更しております。前中間期につきましても、変更後の数値に組み替えて記載しております。

POINT

■ 資産合計

受取手形及び売掛金、現金及び預金、棚卸資産等の流動資産の減少等により、前期末に比べ257億円減少しました。売掛債権の保有日数は63日、棚卸資産の保有日数は16日と健全な状況を維持しております。

■ 負債合計

支払手形及び買掛金、未払費用、未払法人税等の流動負債の減少等により、前期末に比べ267億円減少しました。

■ 純資産合計

その他有価証券評価差額金等のその他の包括利益累計額の増加等により、前期末に比べ10億円増加しました。自己資本比率は58.3%と前期末に比べ3.4ポイント上昇し、強い財務体質を維持しております。1株当たり純資産は1,914.81円となりました。

キャノンマーケティングジャパングループ会社一覧

(2013年7月1日現在)

分野	会社	主な事業	売上高 (億円)
	キャノンマーケティングジャパン (株)		(2013年中間期)
ビジネスソリューション	100% → キヤノンシステムアンドサポート (株)	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス機器の販売・サービス 中堅・小規模企業向けソリューションビジネス 	572
	100% → 日本オセ (株)	<ul style="list-style-type: none"> 大判入出力システムの販売・サービス 	9
	100% → キヤノンプリントスクエア (株)	<ul style="list-style-type: none"> グラフィック・POD等の印刷サービス 	4
	100% → 昭和情報機器 (株)	<ul style="list-style-type: none"> 高速漢字情報処理システム等の開発・販売 	65
ITソリューション	100% → キヤノンMJアイティグループホールディングス (株)	<ul style="list-style-type: none"> ITソリューショングループ会社の事業活動の統括・管理 	408 (連結)
	100% → キヤノンITソリューションズ (株)	<ul style="list-style-type: none"> SIおよびコンサルティング、各種ソフトウェアの開発・販売 	
	→ キヤノンITSメディカル (株)	<ul style="list-style-type: none"> 医療システムの開発・販売 	
	→ キヤノンbizアテンダ (株)	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスプロセスアウトソーシングおよび人材派遣 	
	→ スーパーストリーム (株)	<ul style="list-style-type: none"> 統合業務パッケージの企画・販売 	
	→ ガーデンネットワーク (株)	<ul style="list-style-type: none"> ASP (アプリケーション・サービス・プロバイダー) サービス 	
	→ クオリサイトテクノロジーズ (株)	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの開発とデータセンターの運営 	
	→ Canon Software America, Inc.	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスアプリケーションソフトウェアの開発 	
	→ 佳能信息系統 (上海) 有限公司	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの開発・販売 	
	→ Canon IT Solutions (Thailand) Co., Ltd.	<ul style="list-style-type: none"> タイ国内におけるITサービス事業 	
	→ Canon IT Solutions (Philippines), Inc.	<ul style="list-style-type: none"> フィリピン国内におけるITサービス事業 	
100% → キヤノンソフトウェア (株)	<ul style="list-style-type: none"> 情報系ITサービスと製品組み込みソフトウェアの開発 	104	
100% → エディフィストラニング (株)	<ul style="list-style-type: none"> 企業向けIT研修・マネジメント研修 	4	
イメージングシステム	100% → キヤノンカスタマーサポート (株)	<ul style="list-style-type: none"> コールセンター、コンシューマ製品のサービス 	31
	100% → ウイズフォト (株)	<ul style="list-style-type: none"> 写真関連のポータルサイト運営・通信販売 	0
産業機器	100% → キヤノンライフケアソリューションズ (株)	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器、医療システム、ヘルスケア関連機器等の販売・サービス 	96 (連結)
	→ (株) エルクエスト	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器の製造 	
	100% → 台湾佳能先進科技股份有限公司	<ul style="list-style-type: none"> 半導体製造関連機器等の販売・サービス 	0
シェアードサービス※	100% → キヤノンビジネスサポート (株)	<ul style="list-style-type: none"> グループ内不動産等の資産の運用管理 	8 (連結)
	100% → オーエーエル (株)	<ul style="list-style-type: none"> 商品・消耗品等の配送 	

連結子会社は24社です。(ドメイン名管理会社等3社を除く。)

※シェアードサービス: 同一グループ内の複数の組織で実施されている共通業務を集中化して、サービスの向上とコスト削減をはかる仕組みのことです。

会社の概要 (2013年6月30日現在)

■ 設立	1968年2月1日
■ 資本金	733億308万円
■ 従業員数	連結：18,441名 単独：5,575名
■ 主要拠点	本社 (東京都) 港南事業所 (東京都) 幕張事業所 (千葉県) 札幌支店 (北海道) 仙台支店 (宮城県) 名古屋支店 (愛知県) 大阪支店 (大阪府) 広島支店 (広島県) 福岡支店 (福岡県)

株式の状況 (2013年6月30日現在)

■ 発行可能株式総数	299,500,000株
■ 発行済株式総数	151,079,972株
■ 株主数	15,675名
■ 大株主	

株主名	持株数	持株比率
キヤノン株式会社	75,708 ^{千株}	56.9%
キヤノンマーケティングジャパン グループ社員持株会	7,181	5.4
ザバンクオブニューヨーク・トリティー ジャステック アカウト	2,367	1.8
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	2,206	1.7
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	2,045	1.5
キヤノンマーケティングジャパン 取引先持株会	1,270	1.0
ステートストリートバンク アンド トラストカンパニー	1,173	0.9
株式会社みずほ銀行	1,001	0.8
第一生命保険株式会社	879	0.7
ステートストリートバンク アンド トラストクライアント オムニバス アカウト オーエムゼロツー	745	0.6

(注) 1. 当社は、自己株式17,994,269株(発行済株式総数の11.9%)を所有しております。
2. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式数を控除して算出しております。

所有者別株式分布状況

金融機関	その他の国内法人	外国法人等	個人その他	自己株式
8.2%	51.4%	12.2%	16.0%	11.9%

証券会社0.3%

役員 (2013年7月1日現在)

取締役および監査役

代表取締役会長	村瀬 治男
代表取締役社長	川崎 正己
取締役	佐々木 統
取締役	柴崎 洋
取締役	坂田 正弘
取締役	澤部 正喜

取締役	相馬 郁夫
常勤監査役	吉田 哲夫
常勤監査役	川下 寛
常勤監査役	清水 正博
監査役	北村 国芳
監査役	浦元 献吾

執行役員

会長執行役員	村瀬 治男
社長執行役員	川崎 正己
副社長執行役員	浅田 和則

専務執行役員	佐々木 統
専務執行役員	柴崎 洋
専務執行役員	坂田 正弘
常務執行役員	澤部 正喜
常務執行役員	臼居 裕
常務執行役員	井上 伸一
常務執行役員	八木 耕一
常務執行役員	神森 晶久
常務執行役員	神野 明彦
上席執行役員	小野田 満昭
上席執行役員	岩瀬 広樹
上席執行役員	松阪 喜幸
上席執行役員	久保 邦彦
上席執行役員	足立 正親
上席執行役員	郷 慶蔵
上席執行役員	関 誠
上席執行役員	加藤 高裕
執行役員	三上 公一
執行役員	森田 浩喜
執行役員	岩屋 猛
執行役員	林 優
執行役員	大場 康久
執行役員	阿部 尚人
執行役員	栗原 良行
執行役員	松本 啓二

キヤノンMJアイティグループホールディングス㈱代表取締役社長
キヤノンITソリューションズ㈱代表取締役社長
イメージングシステムカンパニープレジデント
グループ総合監査室担当、経理本部担当、調達本部担当
ビジネスソリューションカンパニープレジデント
総務本部長、CSR推進本部担当、法務・知的財産本部担当
人事本部長
IT本部長
イメージングシステムカンパニーバイスプレジデント
キヤノンMJアイティグループホールディングス㈱専務取締役
キヤノンシステムアンドサポート㈱代表取締役社長
グループビジネス支援統括本部長
ビジネスソリューションカンパニーサービス&サポート企画本部長
コミュニケーション本部長、総合企画本部長
ビジネスソリューションカンパニーエリア販売事業部長
ビジネスソリューションカンパニーBS直販統括部門担当
キヤノンITソリューションズ㈱取締役専務執行役員
キヤノンITソリューションズ㈱取締役専務執行役員
キヤノンソフトウェア㈱代表取締役社長
イメージングシステムカンパニーイメージングシステム事業統括本部長
イメージングシステムカンパニーコンシューマ販売事業部副事業部長
ビジネスソリューションカンパニーBSマーケティング統括本部長
ITプロダクト推進本部長
産業機器販売事業部長
医療機器販売事業部長
キヤノンITソリューションズ㈱取締役専務執行役員
キヤノンライフケアソリューションズ㈱代表取締役社長

コミュニケーション活動のご案内

ホームページのご案内

株主・投資家のみなさまに、当社をよりご理解いただくために、「投資家向け情報」のホームページで各種資料の掲載や、会社説明会等のイベント報告も行っております。「投資家向け情報」ページは、「Gomez IRサイト総合ランキング2013」で「優秀企業・銅賞」に選ばれました。

<http://cweb.canon.jp/ir/>



公式Facebookページのご案内

「キヤノンマーケティングジャパン公式Facebookページ」を開設しました。

ショールームや写真展、イベント情報やCSR・環境活動、CM・提供番組など、当社グループに関する最新情報を随時公開しております。

さまざまな取り組みや「商品・サービスへの想い」を、社員の言葉を通じてお届けします。



メールマガジン配信

毎週、IR情報をはじめとして、各種イベントへの出展情報・無料セミナーの情報をお送りしております。「投資家向け情報」のトップページよりご登録ください。

説明会・IRイベント

2月に福岡で開催された、モーニングスター（株）主催の「個人投資家向け合同IR説明会」に出展しました。また、SMBC日興証券や野村證券の各支店で会社説明会を開催しました。今後もこのような機会をなるべく多くつくりたいと考えております。今後の予定は、随時ホームページに掲載しております。



株式のご案内

■事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
■定時株主総会	毎年3月
■上記基準日	毎年12月31日
■配当金受領 株主確定日	期末配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年6月30日
■株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
■同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
■特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社／三菱UFJ信託銀行株式会社
■単元株式数	100株
■公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 <公告掲載の当社ホームページアドレス> http://cweb.canon.jp/co-profile/ir/index.html
■上場取引所	東京証券取引所（市場第一部）
■証券コード	8060

株式に関する各種手続きのお問い合わせ先

- 証券会社にて株式を管理されている場合は、お取引先の証券会社へお問い合わせください。
* ただし、未払配当金の支払い、支払明細発行については、株主名簿管理人（みずほ信託銀行）【電話(0120)288-324(フリーダイヤル)】へお問い合わせください。
- 証券会社にて株式を管理されていない場合は、以下へお問い合わせください。
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話(0120)288-324(フリーダイヤル)
* ただし、当社と昭和情報機器株式会社の株式交換の効力発生日の前日である2012年4月30日において、(旧)昭和情報機器株式会社株式を特別口座でご所有の株主さまにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部【電話(0120)232-711(フリーダイヤル)】へお問い合わせください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

本社：〒108-8011 東京都港区港南二丁目16番6号 / Tel. (03)6719-9111



このマークは株式会社ツバルの森が提供する太陽光発電によるグリーン電力証書の利用を証するものです。キヤノンマーケティングジャパン株式会社は、本報告書の制作(印刷)時に消費する電力相当をグリーン電力証書を利用することで、環境に配慮した冊子制作を行うとともに、日本における自然エネルギーの普及促進に貢献しています。